

## セッション8

# シャロームを回復する

都市における働きの一つの枠組みとして

社会の中で信仰によって生きる

フィリス・クロスビー著

## シャロームを回復する

### 都市における働きの一つの枠組みとして

#### 目的

初代教会は、個人が霊的に新しくされる事と社会に変革をもたらすメッセージを伝えながら、ごく少数の人々からローマ帝国における主要な宗教へと成長しました。この論文は、それがどのようにしてなされたのか、また、21世紀において地球規模で拡大する都市における働きについて考えることを助けるためのものです。

#### 目次

はじめに            都市のストーリー: 創造、墮落、贖い、回復

第1章                だれ: 影響力のある人々

第2章                どのように: 社会的活動への参加と開かれたネットワーク

第3章                なぜ: イエス様のシャロームを回復するために

#### 結論

付録 1               影響力のある人の代表例: 徐光啓 (じょ こうけい)

付録 2               社会的活動への参加の代表例: グラディス・アイルワード

付録 3               開かれたネットワークの代表例: クラパム・グループ

付録 4               愛の行動の代表例: ダミアン神父 1

## はじめに

都市、都市中心部、主要都市地域(メトロポリタン)といった言葉を聞くと、人々の流れ、権力、濃密さ、可能性といったことを感じます。多くの人々がより高い地位を求めて殺到し、だれもが大きな業績を残そうとしたり、有名になろうとしたり、または社会から取り残されてしまったりしています。全世界から多くの移民が都市に流れ込んできます。都市には裕福な人、権力のある人、貧しい人、社会から取り残されてしまった人もいます。都市はビジネスや貿易、差別や不正、犯罪と腐敗、また芸術と美を提供する場所です。それは創造的なエネルギーの源であり、知的財産の砦でもあります。都市は社会における文化的、学術的に有名な学校や組織を持ち、この世が提供することのできる最善と最悪のものを表しています。

グローバル化の結果、国家政府は主要な都市における金銭や情報の流れをもはやコントロールできなくなってきました。ニューヨーク市在住の牧師であり、グローバルな大都市を学術的に研究しているティム・ケラーはこう述べています。

「都市は未だかつてないほどに権力を増ただけでなく、都市同士が互いに関係し合うがゆえに、各都市が似通ったものとなっている。多くの大都市圏は驚くほどに似ている。都市同士の日常の関わりが深まり、住民たちは都市から都市へと旅行し、移動しているのである。」<sup>2</sup>

都市はその本質において、文化を生み出す中心となっています。芸術、学問、経済が都市圏内で関わり、それらが重複することにより相乗効果をもたらしています。企業、学校、文化的組織も大都市圏において形作られ、支配されています。さらに、都市は新しい機会を求める人々、つまり他の国からの移民や、同じ国の他の地域から移ってきた人たちのために雇用を生み出しています。

私たちは次のことを問うべきです。「私たちをとりまく都市の状況は、神や神の御国とどのような関係があるのだろうか。」

都市に関する話を最も良く理解するために、「創造」、「墮落」、「贖い」、「回復」という枠組みを通して見ていきましょう。

**創造:**都市はどうあるべきでしょうか？ この世は「shalom(シャローム)」のために造られました。「シャローム」とは普遍的に繁栄していることであり、人類は本来そのような状況のもとで生き、仕事するように創造されていました。「シャローム」というヘブル語はしばしば「平和」と訳されますが、実際はもっと多くのことを意味する言葉です。それは、神、人間、被造物がともに織り合わされ、それぞれが互いに正しい関係を持ち、「相互」に支え合う関係のことです。この相互依存、言い換えるなら正しい関係のゆえに、すべてが栄え、普遍的な正義、繁栄、喜びが存在します。

都市は、シャロームを提供すべき存在なのです。私たちは都市から発信されている最高に良いものを見ること通して都市が「どうあるべきか」を見ることができます。都市が最善の状態であるなら、逃れの場や安全を提供します。またビジネス、芸術、科学、学問を創造的に生み出す場となり、公共の福祉のために文化が形成され(文化において果たすべき役割を全う)ます。

ケラーはこう述べています。「グローバル化された大都市圏は、戦略的な『最先端』の文化となります。」グローバルな

大都市圏においてこそ、文化が生み出され、形成されます。ケラーはさらにこう言います。「その結果、今、グローバルな大都市圏の文化や価値観は、地球上のあらゆる言語、部族、民族、国家に発信されている。例えば、インディアナ州やメキシコの田舎にいる十代の子たちに対しての、大都市の影響力は、国家や市民グループなどよりもはるかに大きい。... 都市は文化が発展する主要な場所であり続ける。」

**墮落:**都市はどうなってしまったか。罪がシャロームを破壊したとき、社会の絆、言い換えるなら被造物の「相互」依存(互いに助け合う関係性)がほどけてしまいました。不正がはびこりましたが、人々は気に留めなくなりました。富んだ人々が貧しい人々を支配し、社会に順応できる者たちが生き残り、弱い人たちは社会から取り残されました。互いに信頼し合うことに大きなリスクが伴うため、人類は「相互」依存(互いに信頼すること)を避けるようになりました。その代わりに、自分のことは自分ですという「独立心」が起り、しばしば人々は孤立し、シャロームを切望するようになりました。

都市は、墮落してしまった「創造された構造」です。あらゆる可能性を秘めながらも、世界の都市は破壊され、バラバラになってしまいました。創世記 11:1-9 には、与えられている資源を罪深い仕方を用いて文化を形作ろうとしたために、都市が「墮落した方向」へと向かっていった姿が描かれています。

さて、全地は一つのことば、一つの話しことばであった。そのころ、人々は東のほうから移動して来て、シヌアルの地に平地を見つけ、そこに定住した。彼らは互いに言った。「さあ、れんがを作ってよく焼こう。」彼らは石の代わりにれんがを用い、粘土の代わりに瀝青を用いた。そのうちに彼らは言うようになった。「さあ、われわれは町を建て、頂が天に届く塔を建て、名をあげよう。われわれが全地に散らされるといけないから。」そのとき主は人間の建てた町と塔をご覧になるために降りて来られた。主は仰せになった。「彼らがみな、一つのことばで、このようなことを始めたのなら、今や彼らがしようと思うことで、とどめられることはない。さら、降りて行って、そこでの彼らのことばを混乱させ、彼らが互いにことばが通じないようにしよう。」こうして主は人々を、そこから地の全面に散らされたので、彼らはその町を建てるのをやめた。それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。主が全地のことばをそこで混乱させたから、すなわち、主が人々をそこから地の全面に散らしたからである。

この箇所を「構造」と「方向性」という視点で考えてみましょう。

**構造:**都市の構造は、運営するため、創造的な活動をし、共同体を生み出すため、礼拝し、安全を確保し、保護するといった目的のために形成されています。前述の箇所では、バベルが技術的には発展していた都市であったことがわかります。「れんがを焼く」ことや、瀝青、つまりアスファルトを使用することは、この都市において生まれた新しい技術でした。この塔そのものが礼拝の場となるように意図されていたかどうかは明確ではありませんが、建築における新しい功績となることは間違いありませんでした。宗教的な表現や建築は文化を生み出す活動であり、どちらもそれ自体が悪いものではありません。人々が犯した過ちは、なぜこの塔を建てようとしたかという理由にありました。彼らは神から「離れて」自分たちの力で安全と権力を得ようとしたのでした。

**方向性:**この箇所では、この都市の創造の「構造」が「贖いの方向」ではなく、「墮落の方向」へと動いているのがわか

ります。シャロームが破壊されてしまっています。何よりもまず、人々は全地に散らばって、この世を発展させるという文化命令に対して不従順でした。彼らの願いは「名をあげよう。われわれが全地に散らされるといけないから」ということでした。彼らは散らされることを望んでいなかったのです。行くのではなく、とどまるという彼らの決断を導いたのは、彼らの高慢と、自分のことは自分でできるという自己過信でした。

ウィクリフ聖書注解(The Wycliffe Bible Commentary)は、この箇所を以下のように説明しています。

この事業の目的は二つあった。まず、彼らは一致がもたらす強さを確信したかったのである。この町と塔は、たとえ神の助けがなくても力を得て、堅固な集団となる事を目指して、人々を一致させた。彼らはこう言っている。「われわれが散らされるといけないから。」もう一つの原因は、彼らが有名になること、名をあげてことを決意していたことにあった。自分たちだけでやっていけるという過信と高慢の罪が彼らの思いを支配していた。彼らは自分たちが忘れ去られないようにすることを望んだ。塔は彼らを一つにし、彼らの名が忘れ去られることのないようにするものであった。彼らは神に盾付き、自分たちでやれることを証明しようとした。彼らの塔は彼らの活力、勇気、才能、そして資源を示す記念碑となるはずだった。バビロン、ソドム、ゴモラ、シドン、ツロ、そしてローマといった塔のある多くの都市は、敬虔なものとは無関係の構造を示すものであった。人間が神の律法と恵みを拒み、自分たちを高めるとき、彼らの上に大惨事が起こることは避けられなかった。

3

主の贖いのみわざ:この箇所では、ご自身の贖いの目的を果たすために二つのことをされています。主は人々を散らし、彼らのことばを混乱させました。なぜそれが贖いの目的を果たすのでしょうか。主は人々を散らすことによって、彼らが従順の道に戻り、文化命令を成し遂げることができるようにされました。また、バベルにいた人々が自分たちを充足させるために、神から切り離された、誤った権力を蓄積していくことがないようにされました。神から引き裂かれた状態こそ、シャロームを破壊するものだからです。主はことばを混乱させることによって、彼らが罪に戻ってしまうことがないように、彼らを守られたのです。

この箇所は神が都市を憎み、田舎を喜ばれることを示しているのでしょうか。決してそんなことはありません。私たちはやがて新しい神の都に住むことになり、また神が大都市圏を用いて贖いのみわざを進めるという計画を持っておられることから、神が都市をとて大切にしておられることは明らかです。しかし、社会の文化を生み出す都市において、神を拒む文化が生み出されていくなら、罪の影響はものすごく速く、また効果的に拡大してしまうのです。

**贖い:** 都市は贖いの過程においてどのように用いられ得るのか？ 大都市で牧師をし、著作活動もしているレイ・バックは「大多数のクリスチャンは、今もなお、田舎という眼鏡をかけて聖書を読んでいる」と述べています。実際は、創世記の最初のページから黙示録の最後の章に至るまで、大都市は贖いの歴史において重要な役割を果たしてきました。神は都市が贖われることと、贖いをもたらすことを意図しておられます。

ティム・ケラーは、都市は旧約聖書において社会における贖いの役割を果たすように意図されていたと説明しています。「町の城壁は、町が身を避けることと正義とをもたらす場所であることを示すものであった。人口が密集していることと城壁のゆえに、民は強盗や軍隊から自分たちを守ることができた。神は町々にさばきつかさを置かれ、そのような

のがれの町において裁判が行われるようにされた。町は弱者 --- 少数派(社会の多数派ではない人々)や貧しい人々など --- が生活する静かな場所であった。」

身を避ける場所としての都市:神は民数記 35:9-15 で6つの「のがれの町」を定められました。

主はモーセに告げて仰せられた。「イスラエル人に告げて、彼らに言え。あなたがたがヨルダンを渡ってカナン之地に入るとき、あなたがたは町々を定めなさい。それをあなたがたのために、のがれの町とし、あやまって人を打ち殺した殺人者がそこにのがれることができるようにしなければならない。この町々は、あなたがたが復讐する者から、のがれる所で、殺人者が、さばきのために会衆の前に立つ前に、死ぬことのないためである。あなたがたが与える町々は、あなたがたのために六つの、のがれの町としなければならない。...これらの六つの町はイスラエル人、または彼らの間の在住異国人のための、のがれの場所としなければならない。すべてあやまって人を殺した者が、そこにのがれるためである。」

社会の構造は、安全な場所となるべき大都市において、最も早く失われてしまうように見えます。しかし、私たちの都市においても、正義を通してシャロームを回復することができるのです。

箴言 11:10-11 にこう書かれています。「町は、正しい者が栄えると、こおどりし、悪者が滅びると、喜びの声をあげる。直ぐな人の祝福によって、町は高くあげられ、悪者の口によって、滅ぼされる。」

この箇所でも用いられている「正しい者」とは、物事を正しくする、あるいは公正に行う人のことです。正しい者になるには、私たちは可能な範囲で正義を回復する必要があります。正義を行うには、自分は社会の益のために犠牲を払う、という心づもりが必要です。正義の定義に基づくなら、私たちは犠牲を払い、他の人々と社会全体に関心を抱くことなしに、正しい者になることはできません。

正義を行うには、バラバラにほどけてしまった社会の構造を結び直すことが含まれます。そうすることによって、私たちは再び「相互」依存の関係に戻ることができ、すべての人々が栄え、シャロームが回復されます。人々の必要、特に私たちの身近にいる弱い立場の人々、社会から取り残されている人々の必要を無視して、正しい者として生きていくことは不可能です。都市のために、そこに住む人々のためにシャロームを回復することは、正しい者が行う御国の活動なのです。

ほとんどの大都市では社会の構造が壊れていて、もはやシャロームが存在していません。どのような理由であれ、繁栄にあずかることが許されない人がいるなら、その社会の構造は破れています。これは私たちの主を悲しませることです。クリスチャンである私たちは、そのような人々が再び社会の繁栄に加わることができるように、彼らを社会の構造にもう一度結び合わせるように召されています。それには、社会から追い出された人々を連れ戻し、虐げられた人々を引き上げ、生きるために必要なものを失った人々に資源を提供することが含まれます。私たちはそのような人々を、神とともに、他のすべての人々とともに、そして被造物の物理的、文化的、社会的構造とともに、再び社会の構造に結び合わせるのです。

都市を中心とした宣教: エレミヤ書には、私たちが生活している都市に対してどのような態度を持つべきか垣間見ることが出来ます。イスラエルの民は捕囚されていました。彼らは 70 年間、バビロンで過ごすことになったのです。エレミヤ 29:4-7 で、神はイスラエルの民に、彼らが捕らえられていった町で 70 年間どのように生きるべきか命じられました。

イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。「エルサレムからバビロンへわたしが引いて行かせたすべての捕囚の民に。家を建てて住みつき、畑を作って、その実を食べよ。妻をめとって、息子、娘を生み、あなたがたの息子には妻をめとり、娘には夫を与えて、息子、娘を産ませ、そこでふえよ。減ってはならない。わたしがあなたがたを引いて行ったその町の繁栄を求め、そのために主に祈れ。その繁栄は、あなたがたの繁栄になるのだから。」

「わたしがあなたがたを引いて行ったその町の繁栄を求めよ。」これは驚くほどに贖いに富んでいます。神は捕囚となったイスラエルの民を通して、彼らを虐げているバビロンを祝福しようとされたのでした。

パウロも都市を中心とした宣教をした: 教会史の専門家、ウェイン・ミークスはこう述べています。「イエスの十字架の後の 10 年間は、パレスチナの村落の文化は非常に遅れていた。そして、ギリシャ・ローマ式の都市がクリスチャンのムーブメントが起こる主要な環境となった。」<sup>5</sup> それから 300 年の間、ローマ帝国の大都市圏では人口の 50 パーセントがクリスチャンとなりました。それに対して、地方においては異教から離れた人々は 10 パーセント未満でした。

新約聖書では、パウロがそれぞれの地域において最も大きな都市で教会を開拓していったことがわかります。ティム・ケラーはその理由をこう説明しています。「都市は社会の『文化を生み出す胎』である。文化の中心をとらえたものは、社会をもとらえるのである。」

#### 回復: この世の希望としての都市

被造物に対する神の計画はエデンの園で始まりました。神は園において、神のみこころに従って被造物を発展させていくように人類に命じられました。しかし、私たちは何に向かって被造物を発展させるべきだったのでしょうか。私たちは永遠に涼しい園にとどまるべきだったのでしょうか。神は黙示録 21:2-5 において、私たちがかつてどのような者であったか、そしてやがてどのような者になるかについて一つの絵を示しておられます。神はこの世を新しくされ、やがてイエス様に新しいエルサレム、つまり天の都を花嫁として渡されます。それは都です！単に人々だけでなく、場所をも用意しておられるのです。

黙示録 21:2-5: 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」すると、御座に着いておられる方が言われた。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」また言われた。「書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」

シャロームを回復するという務めは、地球規模の大都市に住む者たちにとって恐れを感じるものかもしれません。都市は御国の働き人たちにとって大きなチャレンジとなっています。

シャロームを回復することには、ミニストリーの 3 つの要素が含まれます。それは、福音の宣教、社会的な奉仕、文化的な関わりです。人々を神との正しい関係に導くための主要な方法は、伝道し、弟子を育て、聖書を教えることです。社会的な奉仕は個人と社会のシャロームを回復する働きですが、それは愛のゆえに人々を愛することです。文化的な関わりとは、社会的な構造にシャロームを回復することですが、それも大切な働きです。社会的な構造が御国の支配のもとに戻るなら、その構造は神をほめたたえ、神のご性質を現すものとなるからです。

私たちはクリスチャンとして、私たちの都市においてどのようにシャロームを回復するように働くことができるでしょうか。神の御国を代表する者たちとして、私たちの社会や世界においてどのように変化をもたらすことができるでしょうか。初代教会は、その後のどの世代よりも、神の御国を理解し、そのために働きました。その結果、キリスト教はイエス様の死の直後は信者が約 150 人だったのが、300 年も経たないうちに、ローマ帝国の主要な宗教になるまで成長しました。彼らはどのようにしたのでしょうか。1 世紀のクリスチャンたちがこのように数多くの回心者を得ることができたのは、その背後でシャロームを回復していったからでした。彼らがどのような人たち(だれ)であったか、どのように働きを進めたのか、そして、なぜそれをしたのかについて、さらに詳しく見ていきましょう。

#### 「はじめに」のまとめ:

- ・グローバルな文化は、世界の最先端の都市で形成されている。
- ・創世記の最初のページから黙示録の最後の章に至るまで、大都市は贖いの歴史において重要な役割を果たしている。
- ・この世は「シャローム」のために造られた。シャロームとは、普遍的に繁栄していることであり、人類は本来そのような状況のもとで生き、仕事するようにつくられている。
- ・1 世紀のクリスチャンたちが御国を拡大することができたのは、その背後でシャロームを回復していったからである。

#### 第1章:だれ — 影響力のある人々

初代教会のクリスチャンたちは、社会の問題に対して解決をもたらすという強い信仰を抱いていました。彼らは社会のあらゆる領域にシャロームを回復させることに積極的で、個人的、文化的、社会的な様々な病に対して福音による解決をもたらしました。罪深い人々にはっきりと指摘し、イエス様にあつて新しいいのちを得ることができることを説明しました。また、社会的、文化的な慣習に対しても、神をほめたたえ、人間に尊厳をもたらす解決をもって対処しました。初代教会のクリスチャンたちは、宣教(福音を宣べ伝えること)と受肉(福音を生き抜くこと)とが一つになっていたのも、社会の問題に関わることができました。健康、女性に対する虐待、捨てられた乳児たちのケア、その他様々な事柄に関わり、貧しい人々や虐げられた人々を、積極的に社会の構造に連れ戻したのです。

社会学者であり、著者であるロドニー・スタークは「キリスト教の台頭(The Rise of Christianity)」の中でこう述べています。「初代教会の力の源は、その当時の他の宗教はできなかったほどに、社会を復興させる能力をもっていたことであ



った。それゆえ、クリスチャンの信仰は魅力的であっただけでなく、社会の日常の必要に関わるものであった。**その結果、非常に多くの数の人々が福音に応答したのである。**<sup>6</sup>

1世紀のクリスチャンたちは、この世を福音に照らしながら理解し、人々、社会、文化を贖いの方向に導くように影響を与えました。彼らは彼らが生きていた都市の構造に深く関わっていたので、当時の社会制度に御国の価値観をもたらすことができました。1世紀のクリスチャンたちは、そのほとんどが「影響力のある人々」でした。

影響力のある人とは何でしょうか。また、初代教会のクリスチャンたちは「影響力のある人々」としての特徴をどのように抱き、用いたのでしょうか。ジョン・バリーとエド・ケラーは彼らの共著「影響力のある人々 (The Influentials)」の中で、社会のどの層においても、約 10 パーセントの人々が残りの 90 パーセントの人々の考え方や行いに影響を及ぼし、また、多くの場合、彼らはリーダーシップや意思決定において正式な立場をもっているのではない、と述べています。彼らは著者たちの言う「影響力のある人々」なのです。<sup>7</sup> バリーとケラーはさらにこう説明します。「影響力のある人々は社会、文化、市場を運営する人たちである。彼らは地域の事柄に関わり、地域社会に積極的に参加し、職場や個人的な生活においても深く従事し、様々なことに興味を持ち、多くのグループに関わる。彼らは自分たちをどう表現したらよいかを知っていて、そのとおりに実行する。」<sup>8</sup>

これは初代教会のクリスチャンを正当に表したものでもあります。フリードリヒ・エンゲルスは、キリスト教は元来貧しい人々や抑圧された人々によるムーブメントであったと述べていますが、実際はそれと大きく異なり、1世紀のクリスチャンたちはおもに都市におけるエリートたちでした。マルクス主義の歴史家であるハインツ・クレイジグは、1967年に自身のプロレタリアート論を撤回し、初代教会は「都市部の裕福な職人、商人、また進歩主義的な職業に就いている人々」から成っていたと述べました。<sup>9</sup> 新約聖書の歴史家である E.A. ジャッジも初代教会について同じ考えを持っています。「クリスチャンの大多数は、大都市にいる社会的に気取った層の人々であった。」<sup>10</sup>

初代教会は、ほとんどが都市部のエリートたちによって占められていました。彼らは愛と慈善という教理によって動かされ、社会を復興させるために行動し、非常に多くの人々が福音に応答するのを見ることができました。バリーとケラーが述べている「影響力のある人々」のように、初代教会のクリスチャンたちもいくつかの同じ特徴を持っていました。私たちが人々や社会に影響を与えようと願うなら、彼らが持っていた特徴は私たちに様々なことを教えてくれます。

「影響力のある人々」が共通して持っている特徴は以下のとおりです（このリストは「影響力のある人々 (The Influentials)」から抜粋したものです）。

- 1 強い**確信**を抱いている：自分が信じていること、自分にとって大切なこと、その理由を理解している。そのような確信に基づいて優先事項を決めている。
- 2 **活動家**である：影響力のある人々は確信に基づいて行動する。この「活動家」としての特徴のゆえに、彼らの教理は単なる教理で終わらず「確信」になる。彼らは真実で正しいと思っていることに取り組み続ける。さらに、彼らは変化を肯定的にとらえ、変化を起こすために努力する。
- 3 自分の考えを**明確に表す**：自分の確信を明確に表し、人々を会話に引き込むことができる。彼らが技術を用いるのは、おもにそれによって口頭、あるいは文書によって、人々とのつながりを持つことができるからである。彼らは自分に

とって大切な事柄について人々に伝えたいという願いを持っている。

4 **頭脳を活発に用いる**: 彼らは様々な本を読み、社会で今取り上げられている本、文章、事柄について絶えず知っている。彼らはたいていテレビを観るのではなく、読書や会話を通して情報を得ようとする。影響力のある人々は障害を通じて学び続ける者でありたいという願いをもっている。そのため、彼らは興味深い会話ができる人となる。

5 **幅広いネットワークを持っている**: 影響力のある人々は、平均的な人たち以上に、様々な人々を知り、関わりを持っている。彼らはいくつかの異なるグループやネットワーク(公式なもの、非公式なものを含む)に関わっている。

上記の 5 つの特徴は、自分の住んでいる都市に深く関わっている人々を表すものです。彼らこそが、社会、文化、市場を運営しているのです。影響力のある人々は、必ずしも理念や文化を生み出すわけではありませんが、彼らはそれを広め、一般化します。初代教会は、福音が影響力のある人々の行動を通してどのように広まっていくことができるかを示す、良いケーススタディなのです。

スタークは「キリスト教の台頭(The Rise of Christianity)」の中で、初代教会の急激な成長についてこう述べています。「ムーブメントは、すでに存在する社会的なネットワークを通して拡大するほうが、はるかに速く成長していく。」<sup>12</sup> 影響力のある人々は幅広いネットワークを持っています。また、スタークは、情報をよく入手する人たちのほうがより速く新しい概念を受け入れるという事実も示しています。影響力のある人々は頭脳を活発に用い、情報をよく入手するのです。さらに「キリスト教の台頭(The Rise of Christianity)」には、クリスチャンの価値観が「社会福祉や共同体としての連帯における普通のこととして取り入れられた」と書かれています。<sup>13</sup> 影響力のある人々は確信を持ち、それに基づいて行動するのです。

### 第1章のまとめ:

- ・初代教会のクリスチャンたちは、社会のあらゆる領域にシャロームを回復させることに積極的で、個人的、文化的、社会的な様々な病に対して福音による解決をもたらした。
- ・初代教会の力の源は、社会を復興させる能力をもっていたことであった。
- ・社会のどの層においても、約 10 パーセントの人々が残りの 90 パーセントの人々の考え方や行いに影響を及ぼす。
- ・初代教会は、福音が影響力のある人々の行動を通してどのように広まっていくことができるかを示す、一つのモデルである。

## 第2章:どのように — 社会的活動への参加と開かれたネットワーク

紀元1世紀のギリシャ・ローマ世界は、否定し難いほどに残虐で、常識を逸するほどに死に陶醉し、結婚や家庭、特に女性を著しく軽視し、様々な性的な道楽がはびこっていました。

大都市は中の上レベルの人々にとっても、また貧しい人々や虐げられている人々にとっても、死のわなでした。火災、疫病、市民の暴動は手がつけられないほどでした。移民やローマ帝国によって征服された民族が大都市に大量に移住してくるにつれ、大都市は文化的に多様化し、社会的に不安定な状態になりました。

異教は一般大衆の必要に対して解決を提供することはできませんでした。しかし、愛と慈善の教理を抱いたクリスチャ

ンたちは、社会の問題に効果的に対応することができました。社会的、文化的に混乱していた大都市において、教会は根を張り、成長していきました。

キリスト教という新しい信仰は、社会的な危機に対して対応する力をもっていたので、人々から「復興のムーブメント」として受け止められました。スタークはこう記しています。「その名前は、問題に対応する力を『復興させる』ことによって、しばしばこのようなムーブメントが前向きな貢献をしていたことを示している。」<sup>14</sup>

1 世紀のクリスチャンたちにとって、回心と文化的な改革とは一体のものでした。彼らは社会的な必要を効果的に満たすことができたと同時に、救いを求める個人の必要も満たしていきました。彼らの働きは、普通のこととして行われた二つのことによってさらに効果を上げていきました。一つは、**社会的活動**を通して、キリスト教会の大多数を占めていた都市部のエリートたちが、彼らの住んでいた都市における働きに関わっていきました。次に、そのようなクリスチャンたちは他の人々を動員し、彼らの**開かれたネットワーク**を通して、一般大衆の必要を満たしていきました。

社会的活動と開かれたネットワークという背景のもと、人々はイエス・キリストの福音を理解するようになっていきました。また、その背景のもと、文化的な基準に対する問題提起がなされ、変革されていったのです。

社会的活動：ユダヤ・キリスト教の伝統においては、神に対する信仰と崇高な社会的、倫理的基準とが絶えず結びついています。イエス様はご自身に従う者たちに、シャロームを破壊する社会の基準に対して問題提起し、新しい基準を広める、つまり、社会の構造を再構築するのに役立つ政策や法律を作るように召しておられます。初代教会についてスタークはこう記しています。「愛と慈善というキリスト教の価値観は、最初から、社会福祉や共同体としての連帯において普通のこととして見なされていた。」<sup>15</sup>

初代教会の社会的活動は、女性の扱い、中絶、幼児殺害、貧しい人々、やもめ、孤児の扱い、家庭に対する価値観、病人の治療など、様々な領域における社会的な基準の問題を示し、改革していきました。

スタークはこう述べています。「ギリシャ・ローマ世界のあらゆる階層において、望まない女兒や体に障害を負った男児たちを殺すことは合法であり、倫理的に認められ、広く行われていたが、キリスト教の教理は幼児殺害や中絶を禁止した。クリスチャンたちは 2 世紀末までに、自分たちが中絶や幼児殺害をしないことを宣言するだけでなく、そのような『犯罪』をさせ続けている異教徒たち、特に異教の教えを攻撃し始めた。」<sup>16</sup>

開かれたネットワーク：「たいてい人々は信仰を求めてはいない。彼らは人間関係を通して、すでにその信仰を受け入れている人々と出会うのである。」<sup>17</sup> 初代教会のクリスチャンたちは、キリストに対する信仰を個人的な関係を通して抱くようになり、それが勢いを増していきました。その結果、個人の回心はすでに存在する社会的なネットワークを通してなされていく傾向にありました。

社会的なネットワークとは、サークルの会員や職業的なつながりなど、共通の関連性をもった人たちのことです。ほとんどの人々は、いくつかのネットワークに関わっています。社会的なネットワークが開かれていて、複数のネットワークが重なり合うとき、人は最も多くの益を得ることができます。開かれたネットワークとは、新しいメンバーを受け入れる

ネットワークです。大学の同窓会など、あるネットワークは性質上、閉ざされたものとなっています。そのネットワークも、たとえば同窓生の友人たちのネットワークと重なるなら、開かれたものとなります。

社会的活動は自然とネットワークを広げていきます。クリスチャンたちが社会に関わる時、彼らのネットワークは一緒に行動する人たちを含めることになり、広がっていきます。初代教会のクリスチャンたちが一つとなって行動するように人々を動員したように、私たちの教理は社会の必要を満たすために新しいものを生み出しただけでなく、より多くの人々がイエス様について聞き、イエス様があらゆる病いに対する真の解決であることを受け入れるようになりました。貧しい人々、弱い人々、虐げられた人々に仕えなさいというイエス様の命令に従うには、社会の中で行動することが求められ、教会は開かれたネットワークであり続けることが必要となります。開かれたネットワークと人間関係は、そのような贖いの愛を伝える方法であるとともに、贖いの愛が生み出す副産物でもあります。クリスチャンたちが都市に移ってくる移民に仕え、家族や友人から見捨てられた病人たちの必要を満たし、必要を抱えた富んだ人にも貧しい人にも愛を示すことを通して、彼らのネットワークは拡大し、その結果、さらに多くの人々に仕えていくことができるようになりました。

スタークはこう述べています。「回心のムーブメントが成功していった土台は、社会的なネットワーク、また直接的で親密な人間関係の絆を通しての成長である。ほとんどの新宗教のムーブメントは、すぐに閉ざされた、あるいは半分閉ざされたネットワークとなってしまう成功しないのである。外部の人たちとの関係を築き、保ち続けることに失敗するため、成長する能力を失うのである。成功するムーブメントでは、開かれたネットワークであり続ける方法が見出され、自分たちの身近にある新しい社会的なネットワークに関わり、入り込んでいくことができる。それゆえ、長期間にわたって指数関数的な成長を保つムーブメントとなるのである。」<sup>18</sup>

## 第2章のまとめ:

- ・初代教会は社会的、文化的に混乱していた大都市において、根を張り、成長していった。
- ・キリスト教という新しい信仰は、社会的な危機に対して対応する力をもっていたので、人々から「復興のムーブメント」として受け止められた。
- ・初代教会の成長にとって不可欠だったのは、**開かれたネットワークと社会的活動**であった。

## 第3章:なぜ — シャロームを回復するために

初代教会の魅力と力は、イエス・キリストのいのちと教えを忠実に見習ったクリスチャンたちから生まれたものです。イエス様に従う者たちは、イエス様とイエス様が救いをもたらすために来られたこの世とをつなぎ続ける仕方で、イエス様の愛と奉仕についての教えを生活を通して示しました。

ロドニー・スタークは「キリスト教の台頭(The Rise of Christianity)」を驚くべき言葉で締めくくっています。「クリスチャンたちが、疫病が流行したときに病人に仕え、中絶と幼児殺害を拒絶し、多くの子どもを産み育て、社会を整えていく活力をもっていたのは、教理が中心的な役割を果たしたからであることは明白である。それゆえ、私はこの研究の結論を出すにあたり、私にとってキリスト教の台頭をもたらした「究極的な要因」と思えることを示す必要があると感じる。...キリスト教が歴史上、最も拡大し、最も成功した復興のムーブメントとなったのは、キリスト教の特定の教理のゆえで

ある。そしてそのような教理が、どのように具体的な形をとり、まとまった行動を導き、個人の行いを整えたかが、キリスト教の台頭をもたらしたのである。」<sup>19</sup>

もう一度「シャローム」の概念について考え、それがこの地上における神の御国とイエス様の働きとどのように関連するか見てみましょう。シャロームとは、人類が本来その状況のもとで生き、仕事するように意図されていたものです。それは、神、人間、被造物がともに織り合わされ、それぞれが互いに正しい関係を持っているという「相互」依存のことで、この相互依存、言い換えるなら正しい関係のゆえに、罪と悪が無効となり、すべてが栄え、普遍的な正義、繁栄、喜びが存在します。

イエス様の救いのみわざは、シャロームを回復させるものです。それは個人のたましいと、そのたましいが属している社会の構造とを築き直すものです。それは神と人間との壊れた関係だけでなく、人間同士の壊れた関係と、人間と被造物との間の関係をも回復させます。イエス様の十字架での贖いは、死と罪を排除し、いのちと義を回復させるものなので、シャロームの回復を可能にします。義を行うには、全体の益のために物事を正しくすること、つまりシャロームを必要とします。

初代教会のクリスチャンたちは、神の恵みによって変えられるほどに神の愛と恵みに圧倒され、人々を神の恵みによって変革する器とされました。クリスチャンたちが数世紀にもわたって示したいのちと働きを示す、いくつかの聖書の箇所を見ていきましょう。

**クリスチャンの品性の本質としての愛:** マタイ 22:35-40、マルコ 12:28-34、ルカ 10:25-27 に記されている「大いなる命令」によれば、愛は神との関係、またクリスチャンが関わるすべての人との関係を正しくする土台です。

**愛は私たちがイエス様のものであることを示すあかし:** イエス様は言われました。「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」(ヨハネ 13:34-35)

**隣人を愛することはすべての人々を含む:** 良きサマリヤ人のたとえは、しばしば世界を変えたたとえと言われますが、私たちににとっての隣人はだれであることを示しています。

ルカ 10:25-37

すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスをためそうとして言った。「先生。何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」イエスは言われた。「律法には、何と書いてありますか。あなたはどの読んでいますか。」すると彼は答えて言った。「『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ』、また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』とあります。」イエスは言われた。「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」しかし彼は、自分の正しさを示そうとしてイエスに言った。「では、私の隣人とは、だれのことですか。」イエスは答えて言われた。「ある人が、エルサレムからエリコへ下る道で、強盗に襲われた。強盗どもは、その人の着物をはぎ取り、なぐりつけ、半殺しにして逃げて行った。たまたま、祭司がひとり、その道

を下って来たが、彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。ところが、あるサマリア人が、旅の途中、そこに来合わせ、彼を見てかわいそうに思い、近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱してやった。次の日、彼はデナリ二つを取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。』この三人の中でだれが、強盗に襲われた者の隣人になったと思いますか。」彼は言った。「その人にあわれみをかけてやった人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って同じようにしなさい。」

**愛の対象は私たちの隣人だけでなく敵をも含まれる:** マタイ 5:43-44 「『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め』と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。」

良い行いを通して愛はすべての人々に広がる: 福音書だけでなく、新約聖書の残りの部分を見ると、イエス様の教えがどのように実践されたかがわかります。

「だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行なうよう務めなさい。」1 テサロニケ 5:15

「だれに対してでも、悪に悪を報いることをせず、すべての人が良いと思うことを図りなさい。あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。」ローマ 12:17-18

「ですから、私たちは、機会のあるたびに、すべての人に対して、特に信仰の家族の人たちに善を行ないましょう。」ガラテヤ 6:10

「主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍び、」2 テモテ 2:24

「あなたは彼らに注意を与えて、支配者たちと権威者たちに服従し、従順で、すべての良いわざを進んでする者とならせなさい。また、だれをもそしらず、争わず、柔和で、すべての人に優しい態度を示す者とならせなさい。」テトス 3:1-2

「すべての人を敬いなさい。兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を尊びなさい。」1 ペテロ 2:17

良い言葉と良い行いが一つになる: 神の御国の福音の宣教と、いやしや悪霊追い出しとがともになされました。イエス様が福音を宣べ伝えられたとき、福音を宣べ伝えるために弟子たちを派遣されたとき、またさらに多くの働き手を祈り求めるようにと弟子たちに言われたとき、福音宣教は奉仕やあわれみの行いとともになれました。

マタイ 4:23-25:「イエスはガリラヤ全土を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいを直された。イエスのうわさはシリア全体に広まった。それで人々は、さまざまな病気や痛み苦しむ病人、悪霊につかれた人、てんかんの人、中風の人などをみな、みもとに連れて来た。イエスは彼らをいやされた。こうしてガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤおよびヨルダンの向こう岸から大ぜいの群衆がイエスにつき従った。」

マタイ 9:35-38:「それから、イエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやされた。また、群衆を見て、羊飼いのない羊のように弱り果てて倒れている彼らをかわいそうに思われた。そのとき、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主にも、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」

マタイ 10:7-9:「行って、『天の御国が近づいた』と宣べ伝えなさい。病人をいやし、死人を生き返らせ、ツアラアトに冒された者をきよめ、悪霊を追い出しなさい。あなたがたは、ただで受けたのだから、ただで与えなさい。胴巻に金貨や銀貨や銅貨を入れてはいけません。」

マルコ 6:7-13:「また、十二弟子を呼び、ふたりずつ遣わし始め、彼らに汚れた霊を追い出す権威をお与えになった。また、彼らにこう命じられた。「旅のためには、杖一本のほかは、何も持って行ってはいけません。パンも、袋も、胴巻に金も持って行ってはいけません。くつは、はきなさい。しかし二枚の下着を着てはいけません。」また、彼らに言われた。「どこでも一軒の家に入ったら、その土地から出て行くまでは、その家にとどまっていなさい。もし、あなたがたを受け入れない場所、また、あなたがたに聞こうとしない人々なら、そこから出て行くときに、その人々に対する証言として、足の裏のちりを払い落としなさい。」こうして十二人が出て行き、悔い改めを説き広め、悪霊を多く追い出し、大ぜいの病人に油を塗っていやした。」

**愛は裁きの日に大胆さを与える:** 私たちは新しく造られた者として、神のうちに生き、キリストのうちに隠されています。ヨハネ 4:16-5:1 について考えてみましょう。私たちは愛のうちに生きるとき、神のうちに生きるのです。「神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。このことによって、愛が私たちにおいても完全なものとなりました。それは私たちが、さばきの日にも大胆さを持つことができるためです。なぜなら、私たちもこの世にあってキリストと同じような者であるからです。」

マタイの福音書は興味深い仕方で話が進んでいきます。22 章では、イエス様はサドカイ人やパリサイ人たちに試された後、最も大切な戒めは神を愛し、隣人を愛することであるという「大いなる命令」を言われました。愛こそ、シャロームを築く推進力なのです。

マタイはさらに 23 章で、イエス様がサドカイ人やパリサイ人たちに対していくつもの警告、またはわざわいを述べたことを記しています。パリサイ人たちが「教えても実践しない」ために、イエス様は彼らを「偽善者」と呼び、また、彼らが実際には「人々から天の御国をさえぎっている」と言われました。イエス様は 7 つの警告を言われましたが、パリサイ人たちを批判した最初の理由について「正義とあわれみと誠実を、おろそかにしている」と述べ、彼らの社会的な良心のなさを指摘されました。パリサイ人たちは、正義、あわれみ、誠実をおろそかにすることによって、シャロームを築き、回復することをおろそかにしていたのです。

そしてマタイは、イエス様の神の御国についての教えを 25 章に記しています。35-40 節には、御国は人々の物理的、法的な必要を満たした者たちのためにあることが書かれています。神の裁きは、良い行い、あるいは私たちがどのように生きるかと何らかの関わりがあります。このことと、行いが救いをもたらすという考え方とを混同しないことは大切です。私たちはただ神の恵みによって救われますが、イエス様が言われたこれらの強い言葉も無視することはできません。

せん。

マタイ 25:34-45:「そして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』すると、その正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渴いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。また、いつ、私たちは、あなたのご病気やあなたが牢におられるのを見て、おたずねしましたか。』すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火に入れ。おまえたちは、わたしが空腹であったとき、食べる物をくれず、渴いていたときにも飲ませず、わたしが旅人であったときにも泊まらせず、裸であったときにも着る物をくれず、病気のときや牢にいたときにもたずねてくれなかった。』そのとき、彼らも答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渴き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、この最も小さい者たちのひとりにしなかったのは、わたしにしなかったのです。』」

義を行うとは「他の人たち」に向かうものであり、それには正義とあわれみを行うこと、あるいは他の人のために物事を正すことが必要とされます。イエス様はマタイ 5:20 でこう言われました。「まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、入れません。」

初代教会のクリスチャンたちは、愛と慈善は日常生活で信仰を保つために必要な中心的な務めであると見なしていました！これこそ、イエス様を愛する者たちを通してこの世に注がれるイエス様の受肉的な愛です。私たちには、イエス様が教えてくださったすべてのことが含まれている、愛と犠牲という全く新しいいのちが与えられています。これこそ、救いの恵みのメッセージを運ぶ生き方なのです。

ほとんどのクリスチャンにとって、愛と慈善が信仰の中心的な務めであるという考え方は新しいものではありません。私たちは次のことを自分に問いかけ、取り組む必要があります。「未信者の人たちは私たちのことを愛にあふれた者と見てくれているだろうか？」

### 第3章のまとめ:

- ・初代教会のクリスチャンたちはイエス様のこと、イエス様のいのち、イエス様の働き、イエス様の教えを理解していたがゆえに、彼らのいのちと働きが伝わっていった。
- ・聖書は愛と慈善を信仰の中心的な務めとして強調していて、それは日々の行いにおいて実践され続けるべきものである。

### 結論



1 世紀の教会は、21 世紀における地球規模の大都市に住む人々に対して霊的ないのちをもたらす、仕えていくための実行可能な方法を提供してくれていると言えます。当時の教会も、現代の私たちと同じように都市部で働きを進めていました。そして、当時も今も、罪と破壊に対する唯一の解決はイエス様の血潮です。

1 世紀のクリスチャンたちは恵みの福音によって、人生の方向性が全く変えられていました。彼らは福音が日々の生活と包括的に関わるものであると見なし、救いのメッセージを届けることと、可能な限り悲惨な状況を軽減することの両方を追求しました。イエス様の愛によって動機づけられていた彼らは、恵みによって変えられ、人々に変革をもたらす器となりました。

イエス様に従う者たちは、イエス様をこの世にもたらすことによって「影響力のある人々」になりました。彼らは自分たちの社会に関わり、シャロームを回復し、イエス様による罪の赦しを通して新しいいのちをもたらす福音を分かち合うために、互いにつながり、ネットワークを深めていました。愛と慈善をもって、罪人たちや罪深い組織に対して問題提起しました。

ティム・ケラーはこう述べています。「贖いとは、たましいを救うことよりもはるかに大きなことである。それは究極的には、社会正義、全人類の一致、そして物理的な腐敗や死の終結(イザヤ 11:1-10)といった、被造物の完全ないやしを伴うものである。しかし現在においても、贖いとは、人間の生活のあらゆる領域にキリストの主権に基づく健全さと一貫性をもたらすことを意味する。キリスト教会とは、家庭、商業、人種間の関係、そして生活のすべてがイエス・キリストの主権のもとどのようなものとなるかをこの世に示す、新しい社会となるべきである。」<sup>20</sup> これはやがて来る御国を示すすばらしい描写です。その御国においてイエス様のシャロームは回復し、やがてそれは永遠に、完全に回復されるのです。

私たちの生活がイエス・キリストの主権のもとどのようなものとなり得るか、この世に示す新しい社会となるにはどうしたらよいのでしょうか。21 世紀のクリスチャンの多くは、今日、ビジネス、学問、文化を生み出す社会組織から、身を引いてしまっているのでしょうか。もしそうなら、人間の生活のあらゆる領域にキリストの主権による健全さと一貫性をもたらす力をもう一度得るために、私たちは社会にどのように関わるができるのでしょうか。

## 付録1 影響力のある人の代表例:徐光啟(じょ こうけい)

明王朝と清王朝の時代、上海の生活水準は比較的高かったのですが、地域の発展の見通しは決して明るくありませんでした。古代の中国の伝統では、政府は全国的に認められた学者たちによって運営され、上海には歴史的に知識人がいませんでした。目を見張るような知的な業績がなかったため、上海の地域は官僚制度によって認められた地域となることができませんでした。

徐光啟は、上海出身者で初めて国家試験に受かり、政府の官僚となった人でした。そのため、今日、彼は上海の父と呼ばれています。上海で発展を遂げている「徐家匯」という地区は、彼を記念して名づけられました。

徐は 1602 年に、宮廷で仕えるために北京へ行きました。そして北京でイエズス会の宣教師マテオ・リッチと出会い、キリスト教に回心しました。当時の中国の官僚の中で最も身分の高い回心者となったのです。徐は学問においても、政治においても大きな影響力をもっていました。1603 年に洗礼を受けたとき、彼の影響力は霊的な領域にも及ぶようになりました。

徐は北京において、天文学のための機器を備え、カトリックの学校を開校し、リッチの指導のもと研究を続けました。

1625 年、徐は福音を宣べ伝えるために、ラザロ・カッタネオとともに上海に戻りました。そして、カッタネオは多くの徐の友人や親族に洗礼を施し、上海の城壁の中で最初の教会を建てました。

その後も徐は政府の官僚として働き、また学問を追求し続けました。彼はいくつかの図書館と教会、また 2、3 の天文台を開設しました。また、子どもたちに職業訓練を施すために自分の影響力を用い、いくつかの学校と孤児院も始めました。子どもたちはフランス語やラテン語とともに、大工仕事や刺しゅうを学びました。

それから 2 世紀後の 1847 年、パウロ徐は中国の上海で働きをし、イエズス会は宣教本部を設置し、徐が生み出した教会の一つがあった場所に聖イグナチオカトリック教会を建てました。

徐光啟の影響力は親族全体に及び、彼の孫娘は上海地域の宣教師となり、揚子江流域の地域全体に生み出された 100 以上のチャペルを監督しました。

優れた科学者、翻訳者、著者、正義と公正を重んじた官僚と受け止められている徐光啟は、大きな影響力をもった人でした。

## 付録 2 社会的活動の代表例：グラディス・アイルワード

「もし死ななければならないのなら、私は死を恐れませんが、しかし神よ、私の死が意味あるものとなりますように。」

この伝統的な中国人の祈りは、日本との長い戦争の中を通ったグラディス・アイルワードにとって、しばしば慰めとなりました。陝西省南部の山間部での生活は、村々が破壊された後は困難を極めました。戦争孤児の安全を守るという責任を負いながら、アイルワードは 94 人の子どもたちと陽城から西安への山道を日本軍から隠れながら進みました。この話と同じように特筆すべきことは、これは彼女の生涯にわたる社会的活動の一つに過ぎなかったことです。グラディス・アイルワードの人生を見ると、彼女は次のようにも祈ったに違いないと考えることができます。「もし生きるべきなら、私は生きることを恐れませんが、しかし神よ、私のいのちが意味あるものとなりますように。」

表面的に見ると、アイルワードの生涯は特別なものとは思えません。彼女はイギリスで貧しく、教育を受けていない召使いで、海外での奉仕には向かない人と見なされていました。しかし彼女は強い意志と自己学習により、キリスト教の宣教の歴史において最も驚くべき働きの一つへと進みました。彼女は財政的な支援を受けず、自活する道を選びました。つまり、本国の宣教団体に頼ることができなかったのです。彼女はお金を貯め、鉄道に乗ってイギリスを離れ、シベリア経由で中国に入ることを計画しました。当時、ロシアと中国は戦争していましたが、両軍が対峙する極寒の荒地で、アイルワードはいのちの危険にさらされる困難に耐えました。それは彼女にとって、中国で生きていくために整えられた期間でした。

陽城に到着してから、本当の働きが始まりました。アイルワードは同労者のローソン夫人とともに、騾馬がひく荷車を御す人たちのための旅館を始め、彼らに最も清潔なベッドと最善の食事を提供し、無料で聖書の話語りしました。

しばらくして、彼女は地域の役人から「纏足禁止調査員」となるように依頼されました。彼女は村から村へ移動し、少女たちの足が縛られることなく成長することができるかどうかを調査しました。彼女は村々で、少女たちのいのちの尊さをお添え、そのような仕方で子どもたちを傷つけることを望んでいない愛の神について説明しました。すぐに彼女が訪問したすべての村に教会が誕生しました。そして、その地域においては短期間で纏足の習慣は根絶しました。

彼女は与えられた務めをとともよく果たしたので、多くの任務を任されました。あるとき、その地域の刑務所で暴動が起こり、囚人たちは互いに殺し合っていました。彼女はただ一人で、何の武器も持たずに刑務所に行き、震え上がりました。彼女が目にした破壊行為はぞっとするものでした。死体や死にかけた男たちが刑務所の庭じゅうに散乱していました。一人の大男は反り曲がった刀を持ち、動く者すべてに切りかかっていました。他の男たちは死ぬまで闘っていました。アイルワードはその刑務所の囚人たちに機織り、農業、衛生教育など、生活に必要な様々な技能を教えました。刑務所長や、反り曲がった刀を持っていた男を含む多くの囚人たちは、クリスチャンになりました。これは、中国におけるアイルワードの生涯にわたる刑務所改革の最初の働きでした。

グラディス・アイルワードは、いつでもどこでも、可能な限り社会の必要に応えました。彼女は孤児たちの世話をし、子どもを売買する組織に対して戦うことで有名になりました。4 人の子どもたちを養子に迎え、戦争と飢餓の中、何百人もの子どもたちを助けました。その他にも、ハンセン病にかかった人たちの保養所で働いたり、刑務所改革に取り組み

続けたりしました。貧しい人々のために寄付を募り、戦争ですべてを失った避難民キャンプで働きました。

グラディス・アイルワードは社会的活動を通して、何千人もの中国人に信仰を目に見える形で示しました。中国国籍を得た最初の宣教師として、彼女は「徳のある人(中国語では艾偉徳)」として愛されました。

### 付録3 開かれたネットワークの代表例：クラパム・グループ

18世紀から19世紀初頭にかけて、イギリス社会には不正がはびこっていました。信仰や道徳は蔑まれ、下層階級の人々は冷たくあしらわれていました。当時の潮流を導き、政策を作っていたイギリスの上層階級の人々は道徳的に退廃し、議会はあされるほどに腐敗していました。議席が売買され、賄賂のゆえに選挙や投票数は予め決められてしまっていました。

奴隷貿易はイギリス帝国における経済的な根幹となり、上層階級の人々の生活様式を保つために不可欠であると見なされていました。しかしあらゆる階層の人々が奴隷貿易に投資し、しばしばごくわずかの期間に100パーセントの利益を出していました。

クラパム研修所のマイク・メッガーによると「1680年から1786年にかけて、213万人の黒人たちがアメリカのイギリス植民地に輸入された。この莫大な人数は、奴隷貿易がしばしば恐ろしい事業であったことを意味する。去勢、焼印、鎖による束縛、女性に対して繰り返される強姦、家族の分断などの虐待がなされていることは知られていた。それでも、奴隷貿易は絶対的な制度であった。1783年から1793年の10年間に、西インド諸島向けの奴隷貿易がリバプールだけで30万人以上にのぼり、1518万6859ポンドの利益をあげた。イギリス帝国の経済は、文字通り、アフリカ出身の黒人の売買に依存していた。」<sup>21</sup> 社会的、道徳的な変化はほとんど起こり得ない状況でした。

1787年、そのような状況において、ある活動家の集団がゆっくりと結合し始めました。クラパム・グループは、18世紀のイギリスと世界に文化的な変革をもたらすことに献身した何人かの人たちが核となり、開かれ、拡大していきつつかのネットワークを形成していきました。

クラパム・グループは信仰、友情、そして社会的変革への戦いのために生涯と資源とをささげるという決意によって結び合わされました。中心メンバーたちは強い信仰をもったクリスチャンでしたが、彼らのネットワークに関わっていた人々がみなクリスチャンだったわけではありませんでした。彼らに関わっていた人々は、必ずしも中心メンバーと同じ確信を共有していたわけではありませんでした。

奴隷貿易を終わらせ、イギリス社会に道徳を回復させるというビジョンによって動機づけられていたクラパム・グループのクリスチャンたちは、40年以上にもわたって非公式のネットワークを築き、協力していきました。クラパム・グループが結成されてから20年経った1807年、多くの苦難と努力を経て、イギリスにおける奴隷制度を禁止する最初の法案が議決されました。それから26年経った1833年に「奴隷制度廃止法」が議決され、イギリス帝国全域において奴隷貿易が禁止されました。

クラパム・グループは奴隷貿易を廃止することだけでなく、様々なことに関心を抱き、取り組みました。聖書協会や宣教協会の設立を含む68の活動に関わりました。貧しい人々や子どもたちに関心をもち、児童労働の制度を改革するために尽力しました。動物への虐待を禁じる法案を議決し、動物保護協会を設立しました。多くの歴史家たちは、この少人数のグループのたゆまぬ努力が、キリスト教の信仰が公共の福祉と道徳のために重要な働きを果たしたビクトリア時代の先導役となったと考えています。

20 人から 40 人の活動家たちからなるクラパム・グループは、様々な技能と社会資本を持っていた人たちでした。彼らが互いに関わり合っていた人脈が幅広かったゆえに、政治、芸術、メディア、教育、ビジネス、宗教といった様々な分野の人々の参加を促しました。ある人々は経済的に富んでいましたが、自給自足で活動をした人たちもいました。それぞれがなすべき務めを果たすために、ユニークな才能や技能を用いました。様々な職業に属し、様々な貢献をしたこれらの人々は、中心メンバーたちが社会的、霊的な変革のために開かれたネットワークを維持し続けたことによって、幅広い影響を与え続けることができました。

マイク・メッガーによると、中心的な指導者たちは以下のとおりです。22

**ウィリアム・ウィルバーフォース(1759-1833)** : 国会議員、ウィリアム・ピット首相の親友。

**ヘンリー・ソーントン(1760-1815)** : クラパム・グループにビジネスにおける実践的な助言と財政的な支援をした、成功を収めた銀行家。ソーントンは国会議員として、何年もの間、銀行改革のために尽力した。

**グランビル・シャープ(1735-1813)** : シャープは相続した財産を持たず、自己学習を通して学問を身につけ、奴隷制度に反対する働きを起し、その目的のためにウィルバーフォースを招き入れた。

**ジョン・ベン(1759-1813)** : クラパムにあるホーリー・トリニティ教会(Holy Trinity Church)の教区牧師であり、グループに対する霊的な指導者。ベンは教区の巡回を最初に行った一人であり、堅信礼準備クラスを実施し、「貧困者の状況を改善する会」を結成した。彼は 6 つの学校を支援し、クラパム在住のすべての子どもたちが無料で教育を受けることができるようにした。また、自分の家族に受けさせることを見本として、教区全体に天然痘の予防接種を広めた。さらに、聖公会宣教協会の初代会長を務めた。

**ハンナ・モア(1745-1833)** : 劇作家であり詩人であったモアは、ロンドンの当時の流行の最先端に行く知識層の仲間に加わった。1780 年代に「真剣な」クリスチャンになった後、彼女の友人である知識者たちに信仰を伝えていった。しかし、モアの最も顕著な働きは、下層階級の人たちのためのものだった。約 500 人の子どもたちに教育を提供した彼女の大衆向けの宗教的な活動と教育は、クラパム・グループから大きな支持を得た。労働者階級の人々にとって励ましとなる、安価な読み物が必要だと感じた彼女は、「チープ・リポジトリ・トラクト」を著した。その値段は 1 冊 1 ペニー、または 0.5 ペニーだったが、ヘンリー・ソーントンが財政的な援助をした。その本は 1 年以内に 200 万部以上売れた。

**ザカリー・マコーリー(1768-1838)** : 元奴隷だった人々のための植民地であったシエラレオネの総督を終えた後、マコーリーは、奴隷貿易船に乗り、アフリカと西インド諸島を結ぶ中央航路で起きていた恐ろしい状況の目撃証拠を集めた。彼はクラパム・グループが取り組んだあらゆる問題の調査をしたが、特に奴隷貿易廃止のための調査に取り組んだ。詳細な記憶力をもったマコーリーは、たゆむことなく事実を集め、証拠を厳密に調べ、国会で審議するための書類をまとめ、グループによって分析されたすべての事柄を提出した。

ザカリー・マコーリーは人々に大きな影響を及ぼした「クリスチャン・オブザーバー」の初代筆頭編集者を務めた。その雑誌は 1802 年から発行され、聖公会の福音的な敬虔さを示す主要な媒体となった。彼は 23 の慈善協会、宗教協会

の会員となり、そのうちの 9 つの団体で理事を務めた。

**トマス・クラークソン(1760-1846)**:彼は人身売買に関する小論文を書いた後、もし彼の小論文の内容が事実であるなら「今こそ、だれかがこの悲惨な状況を終わらせなければならない」と決意した。クラークソンはウィルバーフォース、ジョン・ウエスレー、ジョサイア・ウエッジウッドといった指導者たち 12 名からなる「アフリカ奴隷貿易廃止委員会」の一員となった。

**ロバート・レークス(1735-1811)**:「グロスター・ジャーナル」の経営者兼編集者であったレークスは、クラパム・グループの働きを公に広めた。日曜学校の発展に寄与して信頼を得た後、煙突掃除をしていた子どもたちのための最初の学校を 1780 年に開校した。彼の学校は「驚くべき速さで」拡大し、開校後 1 年で、マンチェスター、サルフォード、リーズにおいて 3600 人の生徒を持つに至った。

**ウィリアム・スミス卿(1756-1835)**:国会議員。奴隷貿易の調査のためにウィルバーフォースの主要な協力者として仕えた。また、フローレンス・ナイチンゲールの祖父であった。ナイチンゲールは、まだイギリスにいた 10 代の頃にキリストを信じた。

**チャールズ・シメオン(1759-1836)**:44 年間、聖公会の教区牧師として奉仕した。彼は当時のすべての説教者たちを育て、ウィルバーフォースの同労者、また友人であり、ヘンリー・マーティンの霊的な助言者であり、社会悪に対して容赦なく追及する説教をした。その説教があまりにも激しかったため、彼が牧師に就任してから 12 年間、彼の教会は彼に説教させなかった。

付録4 愛の行動の代表例:ダミアン神父の物語(メデフィンドとロックスマー著「The Revolutionary Communicator (革命的なコミュニケーター)」より)23

モロカイ島。この島の名前は、憎しみと恐れを伴う苦々しい響きのするものでした。1866年から1873年にかけて、約800人のハンセン病患者が、この断絶された半島に隔離されました。険しい火山によって三方向を囲まれ、もう一方には激しい波が岸に押し寄せました。そこは刑務所であり、あの世でした。そして、太平洋の美しさがその地をさらに奇妙なものとしていました。

法律も希望もなく見捨てられたハンセン病患者たちは、失望に沈むか、快楽に走りまわりました。彼らの生活は強盗、酩酊、性的乱交、無政府状態に満ちていました。どん底まで墮落した彼らは、最終的には病気に打ちのめされ、すでに腐敗していた彼らの体は、しばしば豚や野良犬に食べられてしまいました。

ダミアン神父は1864年に初めてハワイに来ました。彼はベルギーの裕福な農家の息子として生まれ、がっちりとした体格をしていました。彼の兄が病気になって旅行ができなくなり、ハワイの聖心会の責任を果たすことができなくなったため、ダミアンは兄の代役を務めるように要請されました。

ダミアン神父はその修道会で10年間奉仕しました。そのとき、彼の教区にいた人々の多くがモロカイ島へ強制的に移されました。ダミアンは彼らのことが頭から離れず、少しずつ恐れを抱き始めました。彼はハンセン病患者のところにへ行き、彼らが生活しているところに愛を伝えたいと切望するようになりました。1873年4月、ダミアン神父や彼の上司たちに手紙を書き、許可を求めました。1ヵ月後、彼はその恐ろしい島の海岸に降り立ちました。

ダミアン神父は最悪の事態に備えて、苦難に耐えられるように自己鍛錬していましたが、モロカイ島の状況と臭いにあえぎました。彼が最初に出会った人の一人は少女でしたが、彼女の体の半分はすでに蛆虫によって食べられてしまっていました。ダミアン神父はすべての人と会うことを決意し、一人一人に会っていききました。体に触れることを注意深く避けながら、腐敗した死体、人々の息から出る悪臭、止むことのない耳障りな咳の音に直面しました。

ダミアン神父が最初に願ったことは、ハンセン病患者たちに、神の子どもとしての尊厳があることを思い起こさせることでした。彼らのいのちに価値があることを示すために、ダミアン神父は彼らの死を尊びました。棺を作り、墓を掘り、死体をあさろうとする動物から墓地を守り、すべての死者をそのように葬ることを確認しました。

しかし、しばらくして、ダミアン神父は彼らにさらに近づかなければ、自分が分かち合いたいと思っていることをすべて伝えることはできないと感じました。彼は恐る恐るハンセン病患者に触れていききました。彼らと一緒に食事をし、彼らを抱きました。やがて、血がにじみ出ている彼らの傷を洗い、包帯でまくことも始めました。ダミアン神父は何をするにも、ハンセン病患者とともにしました。一緒に棺を作り、教会堂や小屋を建て、道路を作りました。ダミアン神父は農業の仕方や家畜の育て方を教えたり、彼らの声帯がだめになっているにも関わらず歌を教えました。ある報告書には、2人のハンセン病患者に、残った指が合わせて10本あったので、それを使ってオルガンを弾くことも教えたそうです。

ダミアン神父は言葉遣いにおいても、ハンセン病患者に寄り添うことにし「われわれハンセン病患者は」という表現をよ



く使うようになりました。ヨーロッパにいる兄への手紙の中で彼はこう説明しています。「ハンセン病患者を全員イエス・キリストに導くために、私自身もハンセン病患者になりました。ですから、私は説教するときに『わが兄弟たちよ』ではなく、『われわれハンセン病患者は』と言います。...」

ダミアン神父がモロカイ島に来て 11 年後、彼は沸騰したお湯を自分の脚にかけてしまいました。彼は脚に火ぶくれができていたのを恐れながら見ていましたが、痛みは感じませんでした。ハンセン病患者にさらに近づこうとする彼の努力はここに完成したのです。病においても彼らと同等となったのです。

人生の最後の 5 年間、ダミアン神父はハンセン病患者にかかった司祭としてハンセン病患者の人々に仕えました。喜びと苦難の日々が続きました。大規模な助けが各国からもたらされ、何人かの助手も与えられました。そのような祝福とともに、肉体的な痛み、孤独、さらにうつに悩まされました。ついに 1889 年 4 月 15 日、ダミアン神父は息を引き取りました。彼の遺体は、彼が何千人ものハンセン病患者を葬った「死者の園」と彼が名付けた墓地に安置されました。

1936 年、ベルギー政府の要請でダミアン神父の遺体は彼の生誕地に返還されました。その後、何年も経ってから、モロカイ島の人々は、神父の体の一部だけでも返してほしいと切望しました。そして彼らは、ダミアン神父の右手を喜びをもって受け取りました。その手は、すべての人々が彼らを隔離したままにさせようとしていたときに、彼らに触れ、慰め、抱擁した手だったのです。

## シャロームを回復する

### 都市における働きの一つの枠組みとして

---

- 1 メデフィンドとロックスモーの言葉、*The Revolutionary Communicator*, Relevant Books, Lake Mary, FL, 2004, page 24
- 2 ティム・ケラー、*Ministry In the Global Culture of Major Cities*, January 2005, Point I-A&B
- 3 ウィクリフ聖書注解、Electronic Database. Copyright © 1962 by Moody Press
- 4 レイ・バック、*A Theology As Big As City*, InterVarsity Press, Downer Grove, IL, 1997, page 14
- 5 *The Rise of Christianity*, page 129 ウェイン・ミークス引用
- 6 ロドニー・スターク、*The Rise of Christianity*, HarperSanFrancisco, San Francisco, CA
- 7 エド・ケラー and ジョン・ベリー、*The Influentials*, Free Press, New York, NY, 2003 page 2
- 8 *The Influentials* page 1
- 9 *The Rise of Christianity*, page 31にある引用
- 10 *The Rise of Christianity*, page 30にある引用
- 11 *The Influentials* 第1章
- 12 *The Rise of Christianity*, page 55
- 13 *The Rise of Christianity*, page 74
- 14 *The Rise of Christianity*, page 78
- 15 *The Rise of Christianity*, page 74
- 16 *The Rise of Christianity*, page 95-97

17 *The Rise of Christianity* , page 56

18 *The Rise of Christianity* , page 20

19 *The Rise of Christianity* , page 213

20 ティム・ケラー、*The Missional Church* page 5

21 マイク・メツガー、*The Story of the Clapham Sect* , 2004

22 マイク・メツガー、*The Story of the Clapham Sect* , 2004

23 メデフィンドとロックスマーの言葉 *The Revolutionary Communicator*, Relevant Books, Lake Mary, FL, 2004, page 24